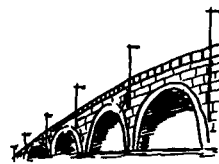


平成12年7月23日
身近な自然特集号

市報

にいがた



市章



港のしるしと中央の五をもつて、安政5年通商条約により指定された五港を意味し、これに雪環を頂かせて五港のひとつ新潟をあらわす

発行日 毎週日曜日 発行 新潟市

〒951 8550
学校町通1 602 1

編集 総務部広報課
印刷 第一印刷所



豊かな自然を保全するとともに、身近にふれあえる自然空間の創造も大切です。

自然の保全と創造

身近な自然の中で

古来、人は自然と向き合い、さまざまな折り合いをつけながら暮らしてきました。しかし、近年は都市化が優先され、人は物質的な快適さを求めるあまり、自然環境を破壊してきました。

あらためて、人と自然との関わりの大切さが認識される中、本市では重要施策のひとつとして、人と自然が共生する安らぎのある都市づくりを進めています。今も残る豊かな自然を保全することはもとより、市街地などの都市部においても、身近にふれあえる自然空間の創造に努めています。

本市には、美しい水辺の自然が数多く残されています。日本海へ注ぐ信濃川・阿賀野川の両大河をはじめ、多くの河川が回廊のように市域を流れ、新潟平野の原風景を彷彿とさせる鳥屋野潟や佐潟などの潟や湖沼が点在しています。これらの水辺は、渡り鳥の飛来地であるとともに、多くの生物の生息地になっています。水辺は、人にとっても身近な自然です。水資源として利用するだけでなく、自然生態系に配慮しながら、自然とふれあえる貴重な安らぎ空間となるよう整備し、今後も保全し続けることが重要です。

「白山公園」などの都市公園は、市街地の中に創造された身近な自然空間です。たとえ人工的な自然でも、人に安らぎを与えるだけでなく、水と緑は野鳥や生物の生息空間ともなります。都市に自然を呼び戻す試みは、本来の自然とネットワーク化を図ることで、新たな自然が生まれるという大きな意義があります。

海岸砂防林や田園は、長い年月をかけて育てたものです。先人の英知と努力で、今では大いなる緑として自然にとけこみ、美しい景観を形成しています。

後世に残すべき自然は、水辺など本来のものに限らず、都市公園など都市づくりの中で創られたものも含まれます。創造された自然は、人が守り育てることで、海岸砂防林のように時とともに自然と融合し、そして、保全すべき自然に生まれ変わるからです。